

あーち通信 2005年11月号 (第2号)

神戸大学大学院総合人間科学研究科ヒューマン・コミュニティ創成研究センター

(HCセンター・サテライト施設「のびやかスペースあーち」事務局)

〒657-0015 神戸市灘区鶴甲3-11

TEL 078-803-7972 / 7973 FAX 078-803-7971

e-mail: zda@kobe-u.ac.jp, itoa@kobe-u.ac.jp

特集 「あーち」の創設にあたって(2)

「あーち」で障害について考える

共に生きる社会をめざしましょう

津田英二 (神戸大学HCセンター、障害共生支援部門)

障害のある人たちと共に生きることのできる社会というのは、どのような社会なのでしょう。これまでの長い歴史の中で、そのような社会が実現したことはありません。障害を理由に追放されたり、放置されたり、隔離されたり、差別されたり、最悪の場合には殺されたりする時代が、長くありました。今でこそあからさまにひどいことは少なくなりましたが、決して共生社会が実現したと胸をはることもできないように思います。

すぐに思いつくのは、障害を理由に本人が望まない生き方を強いられている人たちがいることです。住み慣れた場所で一生を送りたいと思っている人でも、生活を支援している人たちがいないという理由で、施設に入所させられる人たちもいます。障害を理由に、なかなか社会に参加させてもらえないという人たちもいます。就職できない、友だちができない、街を自由に動き回れない、家からなかなか出してもらえないなど、さまざまなレベルの不自由を経験する人たちが、まだまだたくさんいるようです。障害があるということが理由で大きな不利益を被らなければならない人たちがいる社会は、決して共生社会とはいえません。

障害のある人たちが望んだ生活をする事ができるかどうかは、家族が果たす役割が決定的に大きいようです。だから、家族支援(ファミリーサポート)が大切だということもいえますが、逆に家族に大きな負担を強いる社会の問題を解決しなければならないということもできます。

例えば、障害のある子どもを産んだことに罪悪感を覚える親も多いといわれています。その罪悪感が、なんとか我が子を「普通の子」に近づけたいという努力のエネルギーになり、強迫的になった努力によって、今度は子どもに自己否定感(今のままでは受け入れてもらえないという感覚)や「普通の子」に近づくための苦痛を伴う訓練が強いられるといったパターンも、よく聞く話です。

また、障害のある子どもの支援は家族の負担と責任だとされる常識は、障害のある人たちの支援は家族に任せておけばよいという一般の感覚と裏腹な関係にあります。この家族の負担と責任は、子どもが未成年の時だけに限定されません。成人して歳を重ねても軽減されないことが多いといわれています。このような関係の中で、家族が障害のある子どもの支援をすることができなくなったとき、本人は生活の基盤を丸ごと奪われることになるわけです。

大阪で実際にこのようなことがありました。ある地域に、身体と知的に障害のある子どもが産まれたのですが、その子の親は離婚や失踪で早くにいなくなってしまう、一人だけ取り残されました。このような場合、ふつうは施設に入れられるのですが、この地域の人たちはちょっと違いました。何とかこの街で立派にこの子を育てていこうと、街の人たちが立ち上がったのです。多くの住民が協力しあって、この子を学童保育所に連れて行き、学校に通わせ、成人させたのです。その後も、彼が地域で一生を送ることができるようにす

るための実践は続いていきます。今では、彼が中心にいるパン屋さんがつくられ、地域の人たちとの関わりの中で生活しています。

「あーち」でめざす共生のまちづくりとはこのようなものですよと言ったら、多くの方はひいてしまうでしょうね。他人の面倒をわざわざ背負い込むようなことをする人は、そうはいないでしょうから。けれども、本来は自発的に支援の手をさしのべることと「面倒を抱え込むこと」とは異なることのはずです。これがイコールになってしまっていることが、真の問題なのではないでしょうか。障害のある子どもを産んだ親が、社会的な孤立感を感じながら問題を抱え込まれてしまうことと、根っこは同じだと思います。多くの方が関心を持って少しずつ支援をすれば、負担も楽しみに変わるかもしれないのに、ほとんどの人が見て見ぬふりをしたり、そもそも気が付かなかったりするために、一部の人が重

い負担と責任を背負い込むことになってしまうのです。

そのように考えると、大阪の事例からわれわれが学びたいことは、次のようなことだと思います。第一に、解決すべき課題に対して、多くの人たちの協力が得られる地域の風土をつくること。課題を抱え込んでいる人に対して、自然な支援の手がさしのべられる環境がとて大切だということです。第二に、そうした環境の土台になることですが、みんなが一人の人間の命や人生に関心を持ち、大切にしていこうとする気持ちをもつことです。

「あーち」でめざしたいこと、あるいはめざすことができることは、こうした共生のための基盤づくりなのだろうと思います。私の専門上、障害ということを取ら取り上げましたが、こうしたことは他のさまざまな領域でも同じはずです。

「あーち」での共生を考える

伊藤 篤(神戸大学HCセンター、子ども・家庭支援部門)

正直に言いますと、これまで、共生という考えを自分なりに検討したことがほとんどありません。ですから、このテーマは私にとってとてもタフです。でも、「あーち」が子育て支援を契機とした共生のまちづくりを目指す以上、私にとって避けて通ることのできない課題です。

ベビーバギーを押して歩いているお母さんがいます。買い物をした荷物も抱えています。バスのステップを上がろうとすると、赤ちゃんが乗っているバギーの重さと荷物の重さは、何も持たない人に比べて、そのお母さんにとってはまぎれもなく大きなハンディキャップです。足が悪いお年寄りがステップを上がろうとすると、視力の弱い人がステップを上がろうとするときも、まったく同様です。

もし、そんな場面で近くにいたら、あなたは、ごく自然に援助することができますか。それとも、大きな決心が必要ですか。自分が目立つので、恥ずかしいですか。偽善的な振る舞いだと思われまいかと気になりますか。

「あーち」には、様々なハンディキャップをもった人々がやってきます。ここにかかわる人々が、そのような決心や恥ずかしさや気がかりを乗り越えて、援助が必要な人と場面に気づき、自然体で援助できるようになっていく。それがとても重要だと考えています。「あーち」を、誰もがノーマライゼーションの理念を具体化していける場所にしていくこと...それが、現在、私の考えている「共生」の姿です。

「あーち」でのボランティア

「あーち」では、まだまだボランティアさんの手が足りません。みんなで創る、みんなの施設にしていくために、みなさんにできること、やりたいことをご提案ください。プログラムの企画・運営、プログラムの補助、職員の補佐、掃除その他、お気軽にお手伝い下さい。

「あーち」での、いろいろなプログラム（10月～11月）

メダカ親子クラブ いろいろな遊びをしながら楽しく学びます。対象は主に小学生。リーダーは、学校の先生や、先生の経験者です。

らくがきおばさんがやってくる 自分の中から湧き出てくる表現を大切にしながら、色や形で遊びます。3歳以上のお子さんが対象。リーダーはらくがきおばさん（能勢さん）です。

自由に楽しむ絵の世界 いろいろな方法で絵を描いてみましょう。絵を描くのがもっとも楽しくなりますよ。リーダーは前田さんです。どなたでもどうぞ。

音楽の広場 いろいろな人たちが集まって、音楽を通して仲良くなりましょう。みんなで合奏したり、きれいな音楽を聴いたり、楽しい時間を。スタッフ陣も豊富です。どなたでも。

お話の国 お話を聞きながら、ゆったりとした時間を過ごしましょう。おとなもいっしょに、賢沢な時間をどうぞ。リーダーは、マーガレットの会のみなさんです。どなたでもご参加下さい。

紙芝居 いろいろな年齢に応じた紙芝居。リーダーは北村さんです。

折り紙 折り紙名人に来ていただいています。昔ながらの折り紙の定番から、新しい創作折り紙まで、みんなでワイワイ言いながら折ります。リーダーは、井上さんと杉本さんです。どなたでも。

人形遊び 人形を遊びながら、みんな仲良くなりましょう。人形になりきってみましょう。いろいろな楽しいお話しも飛び出すかも……。リーダーは、中井さんです。どなたでもどうぞ。

立体の紙工作 おもしろい形や色の、みなさんだけのお面やとびだす絵本をつくってみましょう。リーダーは、中さんです。4歳以上のお子さんから大人

まで、どうぞ。

環境プログラム 地球を守るヒーローになろう！リーダーは、学生や企業関係の方や学校の先生やボランティアのみなさんです。4歳以上のお子さんから大人まで、どうぞ。

キッズ・サイエンスカフェ 世の中には、不思議なことがいっぱい！その不思議を追いかけている科学者と、楽しいお話しをしましょう。リーダーは、伊藤真之先生です。

ほのぼの音ランド ちっちゃいお子さまと保護者のみなさま、いっしょに楽しく音で遊んでみましょう。いつもとは違う子どもの表情に出会えるかも……。リーダーは淵田さんです。

ポットラック 障害のある子どもを対象にした、いろいろな相談やセラピーの場です。リーダーは高田哲（さとし）先生です。

ほっと 発達障害のある子どもを対象にした、学習プログラムです。リーダーは山根さんで、学習支援者といっしょに楽しく学びます。定員制。

心に浮かぶ言葉・ことばの広がり 言葉の芸術ワークショップ。参加者のみなさんと、ことばの広がりを一緒に感じ取り、考えます。リーダーは鈴木幹雄先生。保護者を中心に。親子同伴でもどうぞ。

展示会 学生の展示学実習を絡めた、自己表現と交流と学びの契機。

つくる・たのしむ 版画家脇谷紘さんによる公開パフォーマンス。どなたでもどうぞ。

誰でもたまり場 主に障害のある人たちが、安心してリラックスできる空間づくり。

みんなで大掃除 いつまでもきれいな場所にしておくために、おとなも子どももみんなで楽しくお掃除をしましょう。どなたでもどうぞ。

ご寄付のお礼

以下のみなさまからご寄付をいただきました。この場を借りて篤くお礼申し上げます。

三村裕一様（掃除機）、旭成社様（紙）、白水浩信様（紙）、フェリシモ様（おもちゃ、カーペット、紙類）

ご寄付について

「あーち」を支援する任意団体「子育てと共生を考える会」が創設されました。寄付金はこちらの会を通して大学に対する寄付となり、大学から「あーち」へ予算配分されます。ご寄付は、伊藤か津田に直接お渡しいただくか、下記口座にお振り込みいただき、住所、氏名、電話番号をお教え下さい。

三井住友銀行 六甲支店 普通（口座番号）4195504（名義）子育てと共生を考える会

また、「子育てと共生を考える会」には、賛助会員制度があります。賛助会員になっていただける方は、直接お尋ねくださるか、あるいは事務局宛に住所、氏名、電話番号をご連絡いただいた上で、上記口座に会費をお振り込み下さい。会費は個人会員が5,000円、法人会員が30,000円です。

